

三重県代協 / あいおいニッセイ同和損保

100年企業目指した取組みを

事務効率化・健康経営で



セミナーのようす

事務業務の課題を指摘

経営者が方向性示し生産性向上を

三重県代協とあいおいニッセイ同和損保は3月6日、保険代理店向けセミナー「100年企業を目指した事務効率化・健康経営へのメンタルヘルス取組み」を共同開催し、あいおいニッセイ同和損保専業営業開発部プロ支援グループの山口浩一氏が「代理店業務効率化のポイント」について、次いでアイエムエフ株式会社の大家博日代表が「代理店経営に資するメンタルヘルスの取組みについて」をテーマにそれぞれ講演した。昨年2月に同様のセミナーを実施し、好評を博したことから今回、2回目を開催することとなった。

第一部で講演した山口氏は、業務効率化で問題のある代理店の改善すべき課題について、いくつかの具体的な事例を挙げて説明。一つ目は「募集人が持ち帰った不備を事務スタッフが一生懸命に対応している」というケース。申込書の不備がいつも同じ募集人によるもので、こうした特定の募集人が事務スタッフを独占（事務業務の妨げ）してしまっているケースが非常に多くみられると指摘した。

二つ目は「契約者とのやり取りはペーパーレスだが、社内ではデータを出力して紙で綴じている」というケース。一年に何回も確認するもので、もなにもかわらぬままオンラインデータをわざわざ紙で出力してファイルする代理店が多いとし、「本来は逆に、お客様とのやりとりは徹底したアナログ対応、事務業務はデータ化するなどのオンライン対応であるべきだ」と強調した。

次は「紙の書類を何の条件もなくPDF化して保管している」というケース。山口氏は「ペーパーレスには違いないが、オンラインで確認できないものだろうか」と指摘。本当にその情報が保管に値するのかわかるなどして、事務スタッフの時間を有効的に使うべきだと述べた。

代理店向けセミナーを共同開催

総じて、これらの課題を抱える代理店はZ世代から見放されてしまうことになる」と述べた山口氏は「事務業務はれっきとした経営課題であり、経営者が関与して方向性を示さなければ役割革新による生産性は上がらない」との考えを示した。

第二部で大家氏は、メンタルヘルスについて肉体的健康と精神面の健康、社会的な健康はそれぞれ関係し合っているため、いずれかに問題が起

が前向きに捉えるために、また、職場や仕事に変化が生じる際は、デミーについて概要を紹介した。

当日はセミナーに先立ち三重県代協の北岡伸之会長が挨拶。「代理店の皆さんは今回のセミナーを自分事として聞いていただき、業務効率やメンタルヘルスについて自店なりに実践できることを少しずつ行ってもらいたい」と呼びかけた。

「事務の効率化や新たな体制づくり(合併による大型化)」「新たな役割分担と各人の役割革新」「ICT(情報通信技術)活用や業務のDX化による顧客へのアプローチの顧客へのアプローチの法の革新」などをもち、そのことが従業員のストレスにつながると述べた。